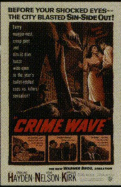


ノワールより暗い闇 — アメリカン・ギャング・ノワールの世界

吉田広明 (映画評論家)

ギャング映画は30年代の不況期に一世を風靡する。エドワード・G・ロビンソンやジェームズ・キャグニー、ジョージ・ラフトらが演じた男たちが、暴力によって底辺から天辺へのし上がってゆく様に、経済的困難、禁酒法で息の詰まる生活を強いられた市民は快哉を叫び、自分たちを救わない社会を破壊する彼らに共感を抱く。しかし映画による人心の壊乱を批判された映画界は、業界内での自主規制=ヘイズ・コードによって、犯罪の仔細を描き、犯罪をそそのかすような描写や、犯罪者が成功するような結末を禁じることとなり、ギャング映画は一気に衰退した。ただし、これはワーナーやパラマウントなどA級製作会社に限ったことであり、B級会社に関わることはなかった。その虚を突いたのがB級専門映画製作会社モノグラムを拠点としたキング兄弟であり、『犯罪王デリンジャー』は大ヒットする。ギャング映画はもっぱらB級映画で生き延びてゆく(ドン・シーゲル『殺し屋ネルソン』、ロジャー・コーマン『機関銃ケリー』など)。

現実に巨大ギャング組織はFBIや財務省など連邦捜査官の活躍により壊滅させられて行き(『秘密調査官』や『情無用の街』を見よ)、それもギャング映画の衰退をもたらすが、しかし組織による犯罪やギャングという存在そのものがなくなるわけもなく、ギャングはその後も映画の中に現れ続ける。犯罪を描く映画としてギャング映画の後継となったのがフィルム・ノワールということになるが、その中に現れるギャングは30年代の最盛期にあった陽性の爆発力を失い、彼らの暴力は暗く、陰湿なものとなってゆく(『復讐は俺に任せろ』や『暴力団』)。ギャング自身が自己破滅/破壊的な存在だったり(『ギャングスター』、『ラケット(脅迫者)』)、ギャング(というかこの場合はその弁護士)にも同情の余地があり、必ずしも黒白が明確でなかったり(『悪の力』)、ギャング・ノワールは限りなく灰色の世界に近づく。ギャング組織に潜入する捜査官の孤独(『国境事件』)、誰が敵か味方か分からない疑心暗鬼の世界(『その女を殺せ』)。ギャングへの復讐心ゆえに揺らぐ、刑事とギャングの境界線(『復讐は俺に任せろ』)。ノワールに侵食されたギャング映画=ギャング・ノワールが湛える闇は、ノワール以上に暗く、淀んでいる。



11.8 土	9 日	10 月	11 火	12 水	13 木	14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金
14:30 A	14:30 N	14:30 L	14:30 O	14:30 K	14:30 G	14:30 L	14:30 I	14:30 G	14:30 E	14:30 O	14:30 D	14:30 H	14:30 J
16:45 O	16:10 B	16:50 A	16:00 M	16:25 F	16:15 N	16:50 C	16:20 M	16:20 A	16:20 J	16:05 H	16:15 N	16:00 O	16:15 K
18:20 E	18:00 D	18:40 H	18:00 J	18:10 I	17:50 A	18:40 O	18:10 N	18:10 O	18:10 C	18:00 F	17:50 B	17:40 L	18:10 A

22 土	23 日	24 月	25 火	26 水	27 木	28 金
10:00 N	10:00 F	10:00 A	10:00 G	10:00 C	10:00 D	10:00 E
29 土	30 日	12.1 月	2 火	3 水	4 木	5 金
10:00 O	10:00 B	10:00 I	10:00 K	10:00 A	10:00 N	10:00 M

開催記念トークイベント11/8(土) A『暴力団』14:30回上映終了後 登壇: 上島春彦 (映画評論家) × 吉田広明 (映画評論家)

配給: アダソンニア 宣伝・配給協力: フライトホース・フィルム 協力: ブロードウェイ、仙元浩平 デザイン: 千葉健太郎 字幕: (『暴力団』): 上條葉月

暗闇の中で不気味に光るマシンガン

11/8 土 - 12/5 金 新宿K's cinema

当日一般1500円/学生1300円/シニア1200円

※ 特別鑑賞券発売中 ※ 3回券 3600円 (数量限定)

※WEB予約では使用できません。窓口にて指定席券とお引き換えください。

新宿駅東南口階段下 甲州街道沿

ドコモショップ左入

Tel.03-3352-2471 www.ks-cinema.com/



AMERICAN GANG NOIR FESTIVAL

アメリカン・ギャング・ノワール映画祭

2025.11.8[sat] — 12.5[fri]

※ 暴力団 ※ 悪の力 ※ 身代金誘拐事件 ※ 秘密調査員 ※ 闇の波止場 ※ ギャングスター
※ ラケット(脅迫者) ※ 犯罪王デリンジャー ※ 復讐は俺に任せろ ※ ギャングを狙う男
※ 国境事件 ※ 替え玉殺人計画 ※ 土曜日正午に襲え ※ その女を殺せ ※ 情無用の街



Distributed by ADANSONIA

I 暴力団

1955 89分 | モノクロ |
監督:ジョゼフ・H・ルイス 脚本:フィリップ・ヨードン
出演:コーネル・ワイルド、リチャード・コンテ、リー・ヴァン・クリーフ



II 悪の力

1947 79分 | モノクロ | **【日本未公開】**
監督:エイブラハム・ポロンスキー
脚本:エイブラハム・ポロンスキー、
アイラ・ウルファート
出演:ジョン・ガーフィールド、ヒアトリス・ピアソン



III 秘密調査員

1949 81分 | モノクロ | **【日本未公開】**
監督:ジョゼフ・H・ルイス
脚本:シドニー・ボーム、ジャック・ルービン
出演:グレン・フォード、ニナ・ファッツシュ



IV ギャングスター

1947 84分 | モノクロ |
監督:ゴードン・ウィリス
脚本:ダニエル・ファックス
出演:バリー・サリヴァン、ペリータ



11/9[日]16:10 19[水]17:50
30[日]10:00

ナンバークジ操作であえて大当たりを出し、支払いに窮する中小の胴元を廃業に追いやり、業界を合理化しようとするギャング。その手先の悪徳弁護士には、小規模胴元をしている兄があった。苦勞して自分を弁護士にしてくれた兄を救おうとするが……。誰もが悪人ながら完全な悪人はいらず、かつ誰もが報いを受けるという救いのなさに痺れる。ボスのアパートと兄の事務所の階段繋ぎ(しかも俯瞰・曲線と仰角・直線)、さらにラストの神話性を帯びた階段など印象的な階段の数々。監督、主演俳優ら左派映画人が集結し、社会批判にまで達したノワールの典型例。

11/9[日]18:00 19[水]14:30
27[木]10:00

アル・カボネと思しきギャングのボスを脱税容疑で逮捕するべく奮闘する財務省調査員。ただしボスは顔すら描かれない。ギャングなきギャング映画。市民は報復を恐れて口をつぐみ、裏切ろうとした男たちは殺される。その殺しの場面の演出は時にあっけないほど簡潔(路上に散るポップコーンのみ)。時に息苦しいほど長く(殺されようとする父を叫びながら追う娘)、ルイスの多様な演出が冴える。マフィアから逃げてきて、息子を殺された移民の老婆が、逃げるのではなく戦うべきだったと語る場面で、孫娘の通訳を経ながらの訥々たる語りもたたらす感動。

11/12[水]16:25 18[火]18:00
23[日]10:00

自分を人に寄生して生きる薄汚いチンピラと認識する、場末の縄張り(その中心となる駅の高架下のバラが演劇的で素晴らしい)の一匹狼。その心の弱さを女に入れあげることで紛らせているが、既に敵対勢力は彼の縄張りを脅かしていた。悪に染まり切れないうえに自滅してゆく敗北主義的ギャング。今から見ればどこまでネガティブなギャングはいかにモノワールの見えるが、紋切り型のギャング映画を期待した観客は失望したかもしれない。本作はキング兄弟が『犯罪王デリンジャー』の成功に気をよくして作ったギャング映画だが、興行的に大失敗した。

V 身代金誘拐事件

1954 82分 | モノクロ | **【日本未公開】**
監督:ロバート・アルドリッチ
脚本:リンゼー・ハーディン、
ヒューゴ・パトラー(未クレジット)
出演:ダン・デュリエ、ジーン・ロックハート



VI 闇の波止場

1951 83分 | モノクロ | **【日本未公開】**
監督:ロバート・バリッシュ
脚本:ウィリアム・ハワース
出演:フレデリック・クロフォード、
リチャード・カイリー



VII ラケット(脅迫者)

1951 85分 | モノクロ | **【日本未公開】**
監督:ジョン・クロムウェル
脚本:ウィリアム・ウィスター・ヘインズ、
W・R・バーネット
出演:ロバート・ミッチャム、ロバート・ライアン



11/14[金]16:50 17[月]18:10
26[水]10:00

舞台はシンガポール。地元のギャングから、ある男の動向調査を依頼された探偵。かつて愛した女の夫にして以前の友人だったその男が関わるのは核物理学者の誘拐、黒幕はその身代金として莫大な金を要求しようとしていた。熱気に煙る街並、階段での極端なアングル、女の部屋でのベッドの螺旋状の飾り越しのショットなど、いかにもノワールな画面から、後半は一転田舎の村を舞台とした人質救出アクションとなり、小粒ながら見どころの多い作品となっている。アルドリッチの長編二作目、ダン・デュリエと組んだTVシリーズ「チャイナ・スミス」のスピノフ。

11/8[土]18:20 17[月]14:30
28[金]10:00

雨の中、殺人現場に出くわした刑事。撃った男は警官を名乗ったが、偽警官だった。男を取り逃がした刑事は職務停止処分を受けるが、殺人事件の背景にあった、港湾ギャングの摘発のために特命を受ける。顔が知られていないボスに迫るべく、港湾労働者として潜入捜査に当たる刑事。刑事役のプロデリック・クロフォードをはじめ、チャールズ・ブロンソン、ネヴィル・ブランド、アーネスト・ボークナインなど、強面が大量出演。蛍光塗料を使つての車の追跡、ボスの意外な正体、そのボスを取り逃してからのさらなる一ひねりの展開など見どころ多い作品。

11/13[木]14:30 16[日]14:30
25[火]10:00

街を牛耳るギャング「オールド・マン」(最後まで画面に姿を現さない)の右腕(ロバート・ライアン)と、ギャング壊滅に邁進する警察署長(ロバート・ミッチャム)の闘い。ハワード・ヒューズ製作だけに、脚本の変更、数人の監督(中にニコラス・レイも含まれる)による演出で、若干ストーリーテリングに難はあるが、痼癖持ちで、何かというと人を殴りにかかるライアンの陰鬱なキャラ造形、判事や検察の捜査官がギャング側の人間として警察に出入りし、堂々捜査を妨害する腐敗ぶりが印象的。28年のルイス・マイルストン監督の同題作のリメイク。

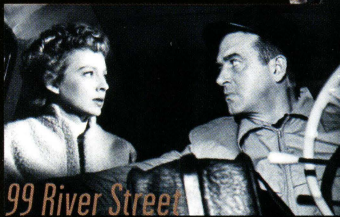
VIII 犯罪王デリンジャー

1945 70分 | モノクロ |
監督:マックス・ノセック
脚本:フィリップ・ヨードン
出演:ローレンス・ティアニー、エドモンド・ロウ



IX ギャングを狙う男

1953 83分 | モノクロ |
監督:フィル・カールソン
脚本:ロバート・スミス
出演:ジョン・ペイン、イヴリン・キース



X 替え玉殺人計画

1951 120分 | モノクロ | **【日本未公開】**
監督:ジョン・ファロー
脚本:フランク・フェントン、ジャック・レナード
出演:ロバート・ミッチャム、ジェーン・ラッセル



XI 土曜日正午に襲え

1953 73分 | モノクロ |
監督:アンドレ・ド・トス
脚本:クレイン・ウィルバー、バーナード・ゴードン、
リチャード・ワームザー
出演:スターリング・ヘイドン、ジーン・ネルソン



11/10[月]18:40 18[火]16:05
20[木]14:30

実在のギャング、ジョン・デリンジャーが犯罪者となりあつたという間にのし上がり、あつという間に死までを描く、その速度感に加え、フリッツ・ラング『暗黒街の弾痕』の一部がぬけぬけと流用される辺りもいかにもB級映画。ギャング映画は30年代に一世を風靡するが、業界の申し合わせ=ヘイズ・コードでA級映画としては生命を絶たれる。しかしB級会社はその限りでなく、製作のキング兄弟、脚本のヨードンはあつり無視して大ヒット。むっつり顔のローレンス・ティアニーはギャングがあまり役となり、その後もB級映画でギャングを演じる。

11/11[火]18:00 17[月]16:20
21[金]14:30

ケガがもとで引退したボクサー、今はしがたないタクシー運転手。貧乏な生活を望む妻は彼に愛想をつかし、宝石泥棒を愛人している。海外逃亡を図る宝石泥棒は、愛人を厄介払いで殺害、その罪を主人公にすりつけようとする。一方宝石泥棒の金を狙うギャングも絡んできて……。主人公が冤罪を晴らすのが主筋ではあるが、主人公の知人で、彼に好意を抱く女優(イヴリン・キース)が数々の見どころで主人公を食ってしまうのが本作の面白いところ。監督のフィル・カールソンには、ギャングと町の住民の戦いを描く傑作社会派ノワール『無警察地帯』がある。

11/10[月]14:30 14[金]14:30
20[木]17:40

国外追放になったギャングが、整形手術で自分と似た背格好の男に成り代わり、アメリカに帰還しようとする計画に巻き込まれた男。彼が夜の酒場でミスティアスな美女に出会うあたりはいかにモノワールだが、メキシコに行つて以降はコメディ調、別な映画が継ぎ足されたようになる。その立役者は映画俳優のヴィンセント・プライズで、主人公が殺されようとしているところを知った彼は、映画のヒーローを実地で行けると意気揚々、映画の後半では主人公を食う活躍を見せる。ハワード・ヒューズ製作と聞けばそれも納得されよう。後半部の監督はフライシャー。

11/9[日]14:30 13[木]16:15
15[土]18:10 19[水]16:15
22[土]10:00 12/4[木]10:00

更生して妻と共にまじめに暮らす男のもとに、脱獄したギャング一味が現れ、銀行強盗に協力するよう迫る。一味には妻を人質に取られ、目をつけられた刑事には初めから一味と結託していると頭ごなしに決めつけられ、窮地に陥った男は……。蛍光灯で照らされた深夜の警察署の殺伐とした雰囲気、ロケ撮影された、風情もなにもない『郊外』の空々しさ。ノワールらしいモノクロの強い陰影のない平板とすら感じられる画面、手持ちカメラによる不確かな動きのリアルがノワールの要質を告げている。アンドレ・ド・トスによる後期ノワールの佳作。その後、脚本のクレイン・ウィルバーはギャングが街を恐怖支配するフィル・カールソンの社会派ノワールの傑作『無警察地帯』(54)の原作脚本、バーナード・ゴードンはカルトB級ホラー『ホラー・エクスプレス』(72)を製作する。

II 復讐は俺に任せろ

1953 89分 | モノクロ |
監督:フリッツ・ラング
脚本:シドニー・ボーム
出演:グレン・フォード、グロリア・グレアム



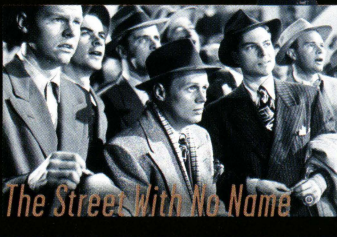
III 国境事件

1949 94分 | モノクロ | **【日本未公開】**
監督:アンソニー・マン
脚本:ジョン・C・ヒギンズ
出演:リカルド・モンタルバン、ジョージ・マーフィ



IV 情無用の街

1948 91分 | モノクロ |
監督:ウィリアム・キーリー
脚本:ハリー・クライナー
出演:リチャード・ワイドマーク、マーク・ステューヴンス



V その女を殺せ

1952 71分 | モノクロ |
監督:リチャード・フライシャー
脚本:アール・フェルトン
出演:チャールズ・マックロー、マリー・ウィンザー



11/12[水]18:10 15[土]14:30
12/1[月]10:00

ある刑事の自殺から、その自殺に不審を訴える女の殺害、同僚刑事の捜査、その家族の被害と、事態が悪化していくうちに、この都合主義的にも見えるが、有無を言わせぬ成り行きはラング的な宿命論の表れでもある。ギャングに妻を爆殺された刑事の復讐譚としてある意味定型なのだが、自殺した刑事の妻(ジャネット・ノーラン)、情報提供する自動車修理工場の足の悪い老嬢、賭けタイスでリー・マーヴィンに虐められる女、そして何よりマーヴィンの情婦役グロリア・グレアムなど、女性が物語展開の転換点を作る、珍しい女性上位のギャング映画という側面も注目。

11/12[水]14:30 21[金]16:15
12/2[火]10:00

アンソニー・マン自身による潜入捜査ものの傑作『Tメン』のセルフ・リメイク。向こうは紙幣密造だったがこちらはメキシコからの不法移民が題材。移民に偽装したメキシコ人捜査官と、偽造入国証の原本を餌にアメリカ側から潜入する捜査官。後者を前者が見殺しにせざるを得ない場面が見どころとなる点『Tメン』同様ながら、こちらは農耕機で轢くという救つた。ラストも流砂での死闘で、かなり残酷度が増している。都会が舞台になることが多いノワールにあって、メキシコ国境が舞台、また製作元が当時最もゴージャスな映画を作るMGMなのも例外的。

11/11[火]16:00 15[土]16:20
12/5[金]10:00

エドガー・J・フーバーのメッセージが映され、FBIの捜査の手続きが紹介される冒頭から、劇が始まってからもナレーションで語りが進められるドキュメンタリー風のノワール。セミドキュメンタリーとして知られるジュルス・ダッシュ(裸の街)と同年作。リチャード・ワイドマークを頭とするギャングに潜入するFBI捜査官。しかし警察内部に内通者がいて、彼の正体がばれ、彼の身に危険が迫る。武器が隠される廃倉庫や、ラストの強盗と対決の舞台となる工場の、陰影深いモノクロ画面はノワールの真骨頂(撮影ジョセフ・マクドナルド)。

11/8[土]16:45 11[火]14:30 14[金]18:40
16[日]18:10 18[火]14:30 20[木]16:00
29[土]10:00

ギャング裁判で証言台に立つ女を、道中護衛する刑事と、彼女を殺害しようと付け狙うギャング。殺し屋の顔が夜の間に沈むアパート(映画が殺し屋の姿を示すための手管に注目)からノワールの雰囲気立ち始める。その攻防がもつたら繰り広げられるのが列車というのもいかにも映画的。怪しいな乗客、閉ざされた空間でのギャングとの頭脳戦、心理戦。そしてラストで明かされる意外な真実、そして映画的な、あまりに映画的なアクションによる幕引き。フェルトンによる余分なものを極力排したタイトな脚本(これで70分)、どちらかというと悪役の多いマックロー演じる刑事の、そして憎々しい悪女ぶりのマリー・ウィンザーの存在感は強烈に記憶に刻まれるだろう。50年代から70年代にわたって犯罪映画に偉大な足跡を残したりリチャード・フライシャーの出世作にして歴史的傑作。

The Narrow Margin